

| 令和2年度第1回 草津市健康づくり推進協議会 | |
|------------------------|--|
| 日時 | 令和2年10月2日（金）午後1時30分～3時30分 |
| 会場 | 草津保健所 2階 トレーニングルーム |
| 出席者 | 委員 中嶋会長、近藤副会長、島田委員、中野委員、馬場委員、中島委員、田中委員、井上委員、山田委員、太田委員、岡田委員、則武委員、堀田委員〔計13名、順不同〕 |
| | 事務局 健康福祉部長・増田高志、健康増進課長・松尾晶子、同課課長補佐・井上昌子、同課専門員・大隅ゆかり、同課主査・大槻真里、同課主任・川崎いずみ、同課保健師・塩田桃子 |
| 欠席者 | 委員 水船委員、中村委員、南委員、山本委員、南川委員、荒木委員 |
| 会議資料 | 別添のとおり |

次第1. あいさつ

皆さん、こんにちは。健康福祉部の増田でございます。

委員の皆様には、御多用のところ、第2回草津市健康づくり推進協議会に御参加を賜りまして、有難うございます。また委員の皆様には、日頃より当市の保健衛生行政に御支援御協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

さて、当協議会につきましては、市民の皆様様の健康の維持増進に向け、施策を推進するため当市の健康増進計画であります、健康くさつ21の取り組みや評価、進捗などについて皆様様の御意見を賜りたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。本日は当協議会の専門部会であります健康増進部会並びに保健推進部会での協議内容や、先日開催をさせていただきました自殺対策推進会議における協議内容などについて報告をさせていただき、委員の皆様より意見を頂戴したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、今年は新型コロナウイルス感染症の影響によりまして、3密の回避やマスクの着用、手洗いや消毒といった感染防止がさまざまな形で求められています。当協議会に置きましても、可能な限り感染防止に努めて参りたいと思っておりますので、御協力の程よろしくお願い申し上げます。

以上、簡単ではございますが、開催にあたっての御挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

次第2. 会議の位置づけについて事務局より説明

次第3. 会長、副会長の選出

○事務局 草津市健康づくり推進協議会設置条例施行規則第7条により、部会長及び副部会長委員の互選によりこれを定めることといたしておりますが、部会長及び副部会長の選出につきまして、いかが取り計らいいたしましょうか。

○委員 事務局の考えに一任したいと思いますので、みなさんいかがでしょうか？

○委員 はい。そうします。

○事務局 事務局一任との御発言をいただきましたので、事務局案といたしましては、会長に

草津栗東医師会所属の中嶋委員様。副会長に滋賀医科大学所属の近藤委員様にお願いしたいと存じますが、よろしいでしょうか。御賛同いただける委員の方はどうぞ。

○委員 (一同賛同)

○事務局 ありがとうございます。それでは、中嶋委員に会長席へ、近藤委員に副会長席への御就任をお願いしたいと思います。それでは、以降の司会進行につきまして、草津市健康づくり推進協議会設置条例施行規則第3条第2項に従い、中嶋会長にお願いいたします。ただいまから令和2年度第1回草津市健康づくり推進会議を開催いたします。どうぞよろしく申し上げます。

○会長 改めまして、皆さんこんにちは。草津栗東医師会の中嶋です。本日は大変お忙しい中、御参加ありがとうございます。本日の協議会の開催にあたり、円滑な議事進行また活発な御討議につきまして、委員の皆様方の御協力をどうぞよろしく申し上げます。委員の皆様も風邪を引かぬようお体お気を付けてください。早速ですが、議題を進めていきたいと思っております。

次第4. 協議事項 ①健康増進部会から 草津市糖尿病対策ガイドラインについて事務局より説明

○会長 今年には糖尿病対策ガイドラインの策定ですので、次期ガイドラインの骨子案と現在のガイドラインの成果について御説明いただきました。この件に関しまして皆様から御意見や御質問をいただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○会長 特定健診の自己負担の無料化を開始したのはいつからですか。以前は皆さんから自己負担1300円をいただいていた、数年前から無料ですが、無料化という施策は、受診率の向上に寄与しているのですか。

○事務局 はい。平成28年度より無料とさせていただいておりますが、大きな受診率の向上にはつながっていない現状にあります。

○会長 無料化というのは受診率向上の施策ですが、平成29年度は減っていますね。結果としてあまり関係なく、受診料無料だから受けているわけではないのですね。別の問題があると考えられますね。受診率は増えていないので、どうしたら特定健診を受けてもらえるようになるのか。

○事務局 昨年度、リーフレットの内容を保険年金課で変更しました。いつも受診しない方が、珍しいものが届いたと思っていただいたおかげで、受診率が前年より伸びました。目新しいことをしていけないといけないと思っています。

○会長 コロナの影響で受診率がどれだけ落ち込むかは、また1年後に明らかになりますね。健診受診者が減っていく中、今後の実施方法に関して、皆さんから御意見をいただきたいと思っております。御意見、御質問あればお願いいたします。

○委員 二つございまして一つは、会長が言われたように、私の自宅にも特定健診の受診券が届きました。特定健診は、高齢者はほとんどが病院へ通院していることが多く、通院のついでに追加で検査すると、受診券を使わずに検査できます。その場合、件数は反映されず、率はあがらないのではないかという話を家族でしていました。もう一つは、資料2の4つの柱の3ページ以降の説明の中で、文章の言葉を少なくしコンパクトにしなければならないのは分かりますが、目標に「〇〇することがで

きる」という言いきった言葉がありますが、高齢者は“する”ことではなく、“できる”ことが目標になっているので、見直しが必要だと思いました。取り組みも「○○できた」と書いてありますが、「できた」は取り組みには当たらないと思うので、言い切った言葉は修正が必要と思います。資料4の12ページの評価とまとめは、言葉での追加説明があれば理解できますが、接続詞がなく、文が切れているので、意味が伝わりにくいのではないかと思います。パワーポイントで要約した場合、相手に伝わらないことがあると思いました。

- 会長 書きぶりについて事務局からなにかありますか。
- 事務局 貴重な御意見、ありがとうございました。どうしても限られた掲載範囲になりますので、少し言葉足らずになってしまったところがあると反省しております。また今後ガイドラインの策定で、内容や書きぶり等も精査させていただき、わかりやすい形で伝わるようにしていきたいと考えております。ありがとうございます。
- 会長 通院されている人も対象者となり、受診率の母数に入っている。普段病院で診てもらっているから、健診に行かなくていいと思っている人もたくさんおられます。健診を受けてと言いますが、断られます。なかなか正確な数字としては、とらえにくい資料だと思います。それからもう一つは、職場で健診を受ける方もたくさんおられ、母集団の数が微妙に変動し、受診率の正確なデータをつかまえにくいところがあります。草津市の単なる人口の変化だけではないと思います。いろいろな要素を含んで変動しているので、なかなか受診率の正確な算定というのは難しいと思いますが、いずれにしても、受診率は低いですね。健診受診については、まだまだ低いと思いますので、無料でも受診してもらえないのを、どう受診に繋げるかと苦勞しています。ぜひそれに関する影響や今後の対策方法などがあれば、教えていただきたいと思います。
- 委員 受診率を上げるために、久山町研究のデータは使われているのでしょうか。私は初参加でガイドラインも初めて見たので、前回のことはよく分かりませんが、久山町のデータの中にポイントとなる、市民にインパクトがある言葉があります。そのような言葉をうまく使えば、市民が受けてみようかなと思うのではないかと思います。これについてお聞きしたいのですが、事務局はいかがですか。
- 会長 久山町研究についてはたくさんの自治体が参考にして、健康政策に使っているところではありますが、独自に草津市が参考にしてということではないのかもしれませんが、ぜひほかの市町の取り組みを参考にするといいですね。久山町研究は、非常に先進的な特殊な研究ですので、なかなかあのようにはいかないです。行政の取り組みの工夫には、他の自治体の取り組みの中に参考にできるものがあるという御指摘かと思います。追加で何か事務局はよろしいですか。
- 事務局 はい。
- 委員 案内のチラシに久山町研究の中で印象に残る言葉がありますので、うまく使われたら市民は非常に興味を持たれると思います。
- 事務局 はい。個別勧奨のはがきなどで工夫をしていきたいと思います。
- 会長 がんの検診の勧奨の手法の中で、怖がらせるという手も一つですし、いろんな手法がありますね。行動経済学的な取り組みを含めて検討すると思います。あと治療継続者のデータを出していただいています。治療継続者はどのような方の割

合でしょうか。

○事務局 糖尿病治療継続者の数値は、特定健診の受診者のうちヘモグロビンA1cが6.5以上の方で、糖尿病治療薬の内服中の方の割合です。

○会長 レセプトからの抽出ではなく、市民の申告ですね。糖尿病は治療継続問題が、非常に大きく、今回のコロナで受診抑制がかかっている、治療継続をしていただけない方はたくさんいますので、これから注目していかないといけないと思います。コロナそのものの問題より、他の問題が大きくなってきているように思います。例えば、派遣を切られ保険証もお金もない方が久しぶりに来院したら、前回と比べてとても悪くなっていた。そんなケースがたくさん出てくるのではないかと思います。

次第4. 協議事項 ②保健推進部会から 草津市の歯科保健事業の取り組みと課題について

○委員 キャッチフレーズの中に、「すべての世代でかかりつけ歯科医を持ち」と入っていますが、いわゆる予防歯科の概念と思います。今の段階でどのような方が、かかりつけ歯科医を持っていると把握していますか。

○事務局 現時点で、市では把握していません。

○委員 今はデータがなく、これから取り組むということですね。資料の中で、むし歯がない乳幼児の増加に興味深く、御両親もかかりつけ歯科医があり、受診されているので減っているのかなど、いろいろと詳しいことを知りたいと思いお伺いしました。

○会長 関連して、成人期かかりつけ医普及促進事業がありますが、これは具体的にどういふことをされているのですか。

○事務局 お出かけドクターがあります。イベントなどで歯科医院の先生に来ていただき、参加者にお声掛けをしたり、歯科相談を実施して啓発をしています。先ほどの、かかりつけ歯科医を持つことですが、妊娠届に来られた方に、妊婦健診と一緒に勧奨しています。妊娠中のだらだら食べや、つわり等でしっかりお食事ができない方へ、妊婦歯科健診を使っただき、産んだ後はお子さんと一緒にかかりつけ歯科医師を持つといいですねと、お話をしています。

○会長 かかりつけ歯科医を持つことは、確かに健診受診のきっかけにはなると思いますが、健診されている歯科医療機関は53件ですね。全部で歯科医院は何件あるのですか。

○事務局 節目検診と妊婦検診は、市内の歯科医院にほとんど御協力いただいています。

○会長 そうですか。健診が受けられる医療機関は、限られているのか知りたかったのですが、ほとんどすべての歯科医院で受けていただいているということですか。

○事務局 そうですね。ただかかりつけ歯科医が他市にある方は、節目歯科検診は受けていただけていません。

○会長 節目歯科健診は、無料ではないですよ。

○事務局 900円です。妊婦健診も同額です。委託料の2割をいただいています。

○委員 節目歯科検診は何歳の方に周知がされているのですか？

○事務局 40、50、60、70歳です。

○会長 対象の人にはがきは、送っているのですか？

○事務局 はい。送っています。

○会長 70歳の方が、受診者数は200人なので、受ける人数はかなり少ないですね。

- 事務局 6～7%ですね。
- 会長 少ないですね。
- 事務局 70代は7%8%ありますが、40代ですと4%5%です。
- 会長 皆さん、はがきは来ていますか？10年に1回は覚えていないですね。インパクトが薄いみたいです。
- 事務局 このような会議の場でも、住民健診などの話はするのですが、歯の話はあまり出来ていません。
- 委員 歯医者に行くのは歯が痛くならないと、行きませんよね。それが問題ですよ。
- 会長 定期的に歯医者さんに行くのは意識が高くて、生活にゆとりがあって、お金にもゆとりがある人が多いと思いました。健康格差に繋がる問題ですね。70歳で歯がたくさん残っている方と随分と減ってしまった方に、二極化していることがありましたが、いろいろな意味でゆとりがないと歯医者さんには行けないという方が多いと思います。
- 事務局 保健推進部会で出た意見で、受診者数は226名と少ないですが、実際はこの人数以上に、節目歯科検診を受けたいと受診されており、多くの方が、治療や歯石を取ることが必要で、1回で終わらず、節目歯科検診ではなく治療に繋がっているという意見をいただいていますので、きっかけにはなっていると思います。
- 会長 いろいろ御意見が出ている中で、若い人も対象にすることや対象を5歳刻みにする、無料にするなどの意見は市としては、どうですか？
- 事務局 無料にすれば確かに一時的には受診者は増えると思います。しかしそれが当たり前になると、減る可能性はあるので、今後そのことも踏まえ長い目でみて検討していきます。
- 会長 無料にすれば受けてもいいと私は思います。はがきが10年に1度は誰も覚えていないですね。しかし5年に一度なら目に留まると思います。認識が深まるのかもしれない。
- 事務局 これから検討します。
- 会長 若い人にどのようにして歯科医院へ行ってもらうか、歯が悪くならないと行かない現状ですが、健診などの機会に歯医者に行くきっかけとして、無料クーポンで御招待でもいいかもしれない。
- 委員 私は半年毎に歯科健診しているのですが、いつも痛いことをされるので元々歯科が嫌いでした。歯科を変更したところ、丁寧に歯の磨き方を教えてくださり、痛みもあまり感じませんでした。定期的に歯科に行くと、治療をされる前に、健診だけで済むと思います。半年に1回健診に行くようになってからは、むし歯になりかけていても、ひどくなる前に治療するので、長期的に見ると、健診に定期的に行っているほうが安く済んでいます。20、30代はお金もないと思いますが、私は健診料900円でもいいと思います。普通に行くと3,000円するところが、900円で受けられるだけでも嬉しく感じます。歯科嫌いの方は多いので、歯科も問診票などで患者が聞きたいことを聞ける欄を作るなど、工夫してくれるともっと行きやすくなると感じました。
- 会長 そのような意見を歯科医院に伝わるようにして欲しいですね。通院は経済的にも難しく、様々な余裕がないと歯科に行けないことがあるので、健診を多くの人に受け

てもらおうことが、いかに大事であるかが分かりました。

- 委員 私には小学生の子どもがいますが、子どもを産むと、子どもの健診は行きますが、自分自身は行けないことがあります。子どものむし歯治療時に親も治療するようになれば、もっと改善されるのではないかと思います。3歳児のむし歯が減っているところは、いい取り組みをされたと思いますので、上昇した要因をもっと突き詰めると親子のむし歯予防にも、繋がるのではないかと思います。働いているお母さんも増えていきますので、特に保育園のポスター掲示や啓蒙活動の中で、定期健診の正しい頻度について伝えるなど、いろいろなところでもっと歯科健診について目にする機会が増えれば、30代40代のアプローチに繋がると思いました。
- 事務局 正しい知識を知り、日頃から予防すると必要最低限の治療で済むということを伝える機会を作り、啓発していきたいと思います。子どものことなら保護者は一生懸命になってくださるので、そこを啓発していきたいと思います。
- 会長 確かに20、30代にアプローチをする中で、子どもが受診したときに、今度は保護者が健診を受けることができるチケットがあればいいのかもしれないですね。
- 委員 歯周病菌が、命にかかわる病気につながっていくというPRをもっとしたら、歯科に行かないといけないと思えるかもしれない。
- 会長 怖がらせるのも一つの有効な案かもしれないですね。
- 事務局 11月1日号の広報で糖尿病と歯周病の啓発特集ページがあり、今日欠席された水船先生のインタビューが載っておりますのでぜひ見てください。
- 会長 若い保護者向けにもインターネットやSNSなど、いろんな啓発の仕方はあると思いますので、紙広報以外にもいろいろ工夫されてもいいですね。
- 事務局 はい。そう思います。
- 委員 私は親と同居をしまして、小さい時から歯は大切にすることを聞かされてきて、今やっとその言葉の意味が分かりました。今は核家族が多く、高齢になったら歯がこうなる、若いとき歯を大切にしないとこうなる、実際に知らないの、受診まで結びつかないと思います。それと、歯科は時間とお金が高くなるという認識があり、先ほど言われた時間的余裕と金銭的余裕がないと医科に行こうとはならない。多分それが原因だと思います。
- 会長 最近は核家族が増えており、お年寄りと同居している子どもたちが少なくなっています。私は祖母が入れ歯の手入れをしているところを子どもの頃に見ていましたが、今はそのようなことが少なくなっています。実際に見ていたり、知っているのといないのでは歯の重要性や歯に関する認識の差があるかもしれないですね。3歳児はむし歯は減っていますが、中・高生以降は食生活が乱れて、むし歯が増えていくだろうと考えられますね。

次第5. 報告事項 令和2年度第1回自殺対策推進会議について

- 会長 報告ということですが、何か御意見や御質問あれば、お願いいたします。今年の自殺者数に関する状況というのはデータとして、ありますか。
- 事務局 令和2年の1月から4月の自殺者数は草津市で6名ということは把握しております。また国からの通知があり、8月に入り前年度比1割5分で自殺者が増えているとい

う報告が来ております。草津市は過去5年間の月別比をみると、8月に多くなっています。しっかり相談の窓口を啓発してくださいという案内や、テレビでもよく自殺について周知があると思いますが、国を挙げて、対策や自殺の予防に取り組んでいるところです。

- 委員 国の倒産など生活困窮による自殺者が多いと聞きました。草津は少ないですか。最新のデータではないのですね。
- 事務局 はい。4月までで6名。去年は一年間で10名でしたので、懸念しております。増える傾向にあると思います。
- 委員 私は民生委員として、ゲートキーパーの研修を受講しました。ゲートキーパーのステップアップ編の受講は、難しいですね。相談や支援できるだけの力量は、1回目を聞いて、難しいと思いました。
- 会長 ハードルが高いですね。
- 委員 私は子育て支援をしまして、1歳～3歳ぐらいまでの子ども親向けのフリーペーパー「ママサポート草津」を作っているのですが、今気になっていることがあります。先日、久しぶりにイベントをしたら、「久しぶりに家族以外の人とお話しました」とか、「すごく辛かった」という話をたくさん聞きました。このような状況なので、産後うつも、表に出ていないところでたくさんあると思っています。産後うつなどピックアップされていることや、何か検討されているところがあれば教えて欲しいです。
- 事務局 子育て相談センターが担当しています。経済面で困っておられる方や、子どもの外遊び中に、お母さん同士で話をしてストレス解消していたことができなくなり、引きこもられている現状があると思いますので、妊娠中からしっかりと話を聞かせていただいて、健診に来られた時や健診に来られない方に寄り添い、丁寧に相談に乗れるようしています。
- 委員 相談は増えているのですか？
- 事務局 小学生、幼稚園の子どもの保護者から、家から出られない、しんどいという相談などが寄せられています。
- 会長 難しい問題で、春先に職を失った人は、例えば飲食店であったりパートタイマーが退職させられたり、どちらかというと女性に影響があったという話が出ています。子育ての問題と両方重なっていると思うので、健診に来られる人はまだいいと思うのです。来ない人をケアしないといけないと思います。また、コロナについて精神科の先生と話をする機会があり、「いろいろなコロナうつが確実に増えています」と言われていました。それから、神経症という手を洗わないといられないという人も増えているという実感があると言われていたので、自殺対策は、なかなか目に見えず大変ですが、いろいろなところに自殺対策について書く、目配せをしていくことが非常に必要かと思います。また、学校の健康診断で学校の先生と話したら、不登校の子どもが増えている、春から休校で休んでいた一年生がそのまま出てこないというのが、新しく増えていると言われていました。そのようなところも、いろいろな施策を打っていく必要があると思いました。
- 委員 基本方針の3番になりますが、地域でどのように地域づくりをしていくか、デリケートであって難しく、情報の開示は難しい。直接話ができる対象に対しては相談を

受けることができるのですが、来られない方にどうしていけばいいのかは、分からないし難しい。地域で推進していくのは難しいというのが、現実問題であると思います。

○会長 ゲートキーパーの件ですが、相談にすら来れない人が問題でしょうし、これが問題の本質かもしれない。どこかに相談できたら、まだまだ救われると思います。コロナで亡くなる人より自殺者数のほうが問題になっていると言われるようになりましたが、しばらくは注意してみていかなければならないですね。行政でできることは限られていますが、できるだけ乳幼児健診に来ない人への電話連絡だったり、ひと手間かけられるといいと思います。

○委員 マンションと一戸建てと新興の住宅地っていうのは、エリアで考えていく必要があると思うので、そこも検討したほうがいいと思います。

○会長 確かに草津は、学区それぞれに対する適切な取り組みが必要かもしれません

○事務局 はい。

次第6. その他

○委員 当初会長も指摘されたように、分母の人数がはっきりしていませんね。例えば、特定健診が36.6%でも、対象者の人数と受診者人数が分かりづらいので資料が読み込めない。乳幼児健診や歯科健診もそうですし、データ作成時は精査していただければありがたいと思います。

○会長 見やすい資料づくりをお願いします。

○事務局 はい。

○事務局 協議事項1番目の糖尿病対策のガイドラインですが、資料5を見てください。次年、第四期のガイドラインの骨子案を記載しています。先ほども少し説明をさせていただいたのですが、骨子案に基づいて、ガイドラインを作成させていただいてよろしいのかどうかを、皆様方の御意見をいただきたいと思います。

○会長 骨子案を認めてよいかということですね。この骨子案につきまして、何か異論等はありませんでしょうか。

ないようですので、この骨子案で進めていきますので、よろしく願いいたします。

○事務局 ありがとうございます。

○会長 他は全体につきまして、何か御意見等ありましたらと思いますが、よろしかったでしょうか。

○副会長 糖尿病対策等、歯科対策については、人が行動変容を起こすのは、何かメリットがその人にないと、行動を起こさないとします。糖尿病が怖い病気ということは分かっているかもしれませんが、歯科は確かに痛くならないと私自身も行かないですね。受診や健診を受けることで、どんなメリットがあるかが分かると、受診者も増えると思いました。

○事務局 ありがとうございます。啓発の内容について検討します。

○会長 先ほど述べたように、費用や対象年齢、或いは保護者にどのように啓発するかなどいろんな工夫がまだまだできそうな気がしますし、大事なことです。ぜひ取り組んで欲しいと思います。よろしく願いいたします。

- 委員 糖尿病のガイドライン第三期から第四期を策定されるあたり、大きく変わったところはどこですか。ポイントを教えてください。
- 事務局 基本的な考え方としましては糖尿病ガイドライン第三期から第四期にかけては、今の一定の取り組みの中で成果が出ている部分もあるので、大きく変更するのではなく拡充内容を事業と紐づけていき、見直していく案の作成を考えております。
- 会長 継承ということですね。
- 事務局 はい。引き続き取り組みを続けていくことをコンセプトにしております。
- 会長 ほかによろしいでしょうか。そうしましたら、この健康づくり推進協議会を終了させていただきたいと思います。活発な御討議ありがとうございました。事務局にお返しします。
- 事務局 ありがとうございます。本日は貴重な意見たくさんありがとうございました。いかに分かりやすく、見る人にしっかりと伝わるように表現の仕方について見直し、市民に伝わる資料を作っていきたいと思います。事業も工夫をしながら、健康づくりに積極的に取り組んでいただけるように、今後も進めさせていただきたいと思います。今後、どのような取り組みをしていくかは会議で開示していきたいと思います。次回第2回は、来年1月末から2月頃を予定しております。よろしくお願いいたします。